

OMC事務局 〒560-0085 豊中市上新田4-16-1-33 合原 一夫 TEL06-6833-9227
 広報編集局 〒573-1171 枚方市三栗1-18-20 前田 茂夫 TEL072-850-5781
<http://www.ne.jp/asahi/smaeda/12/>

平成23年4月(2011年)No.544

10月2日(日曜日)に会場確保 第51回OMC映像フェスティバル

このほど中央会館ホールの申込み江村世話役に行ってもらい、くじ運よく10月2日の第1日曜日に会場が確保されました。昨年は50回記念として朝日生命ホールにて映像フェスティバルを開催しましたが、今回からは再び元に戻して大阪市立中央会館での開催となります。従来、会場予約は3ヶ月前の当日受付け抽選会でしたが、今年から6ヶ月前に変更になったと有村世話役に教えていただき助かりました。うっかり知らないでいると3ヶ月前に申込に行って、後のまつりと後悔するところでした。

さて発表会の日も決まりましたので、あとは会員諸氏の力作を待つばかりです。7月例会作品までの作品の中から選定されますので、そのつもりで作品制作をお願いします。

東日本大震災と関東地区映像界への影響

このところ連日東日本大震災のニュースでテレビ、新聞、雑誌など洪水のように情報が流れてきています。画面を見ていて息をのむ思いがいたします。福島原発事故もあって関東も計画停電やらイベントの自粛やらで、映像発表会の無期延期(第29回日本縦断映像発表会・江戸博ホール、アマチュア映像作家連盟、蔵出し8ミリ映写会)や震災復興基金と主旨替えて発表会を行う例(山岳映画サロン映像の夕べ)、或いは計画停電の可能性があって会場使用を断られ、例会が休会になったクラブもあったとか聞くにつれ、人ごととは思えません。関西もいつ大災害があるか神のみぞ知るです。この様に考えると普通の生活、行事の開催が出来ることは誠に有難いことです。日本の活力を取り戻すためにも、映写会も普段通りに開催し、「頑張りましょう!」のメッセージを送りたいものです。

4月例会のお知らせ

4月例会は第4土曜23日18時より、いつものJR難波駅上4階難波市民学習センターにて開催します。会員諸氏のご出席をお待ちします。
 ■撮影会参加申込み者は参加費15,000円を会計に納めて下さい。

■予告：5月例会は撮影会の都合で第3土曜日となりますのでお間違えない様願います。

3月例会のレポート

3月例会は第4土曜日26日18時より開催。今月は初めて進藤氏が司会を担当され、無事大役をこなされました。書記、関氏、映写係、井上、江村の両氏、受付兼照明係は宮崎、宮井の両氏で進行。合原会長は体調をくずされ珍しく欠席されました。

■出席者：有村、井上、上田、江藤、江村、岡本、上総、蟹江、紙本、河合、黒田、関、進藤、高瀬、錦、西村、華岡、船橋、前田、宮井、宮崎、森下、山本、吉岡の24氏の出席と作品13本の出品でした。

■上映（今月の講評は関世話役です）

1. 第22回なにわ淀川花火大会（SD）

船橋喜敏さん 10分30秒

毎年2万発ほど打ち上げる大阪では屈指の花火大会です。ところが不景気で思うように資金が集まらず、去年の打ち上げ数は非公開。そして40分ほどで終わってしまいました。しかし観客だけは年々増え続け昨年は55万人。拙宅は西中島駅の近くで、普段は近所の人しか通らない細い裏道を昼間からぞろぞろ若者たちが歩き、駅前の交差点は20人ほどの警官やガードマンが出て雑踏を警備する状態でした。河川敷は人で埋めつくされ、作者もカメラを構えてほとんど身動きできなかつたと思います。ですから撮影はどうしても単調にならざるを得ません。望遠を多用したり周囲の観客の表情を撮ったりと、画面の変化も考えてください。綺麗な映像ですが10分越えは少々長すぎたようです。

2. 紅幻想（SD）

高瀬辰雄さん 5分45秒

「くれないげんそう」と読みます。紅葉風景と能の所作をからめた作者独自の表現方法による心象映像です。前半は小面の舞に赤いもみじがオーバーラップ。後半は般若の所作に対し水の流れや木々のパンニングで巧みにモンタージュされており、幽玄と錦繡を調和させた秀作です。おもにタイトルバックに用いられた霧とも飛沫ともつかない映像は、何をどのように撮られたのでしょうか、たいへん効果的な映像でした。

ただ、作品を総括的にみるとアップの比率やカットの長さをあまり考慮されていないのが残念です。終タイトルの直前に紅葉撮影の場所として5社寺の名が出ていましたが、特有の風物が写っているわけではありませんので必要ないと思います。

3. 霧の竹田城址（HD）

江村一郎さん 6分10秒

雲海に漂う遥かな山の頂。突き出た城壁のうえを羽毛で撫でるように霧が流れ、乳白色に包まれた中を人がひとり、ゆっくり歩をすすめるみごとなロング。まさに情緒を湛えた天空の世界です。そんな情緒に浸っていたら、眼下を通過する列車のシーンに続いて下界の現実に戻されました。冒頭にその伏線がありましたが、それは半ば強引に列車をひっつける手段だったのかも。はたしてこの題名と内容に列車の必然性があるのか、考えさせられる作品です。

4. 秋日・奈良（HD）

前田茂夫さん 7分36秒

逆光で鹿の毛が輝いています。银杏の落葉をかき分け、わずかな草を懸命に食む鹿たち。やがて来る冬の食料不足に備えているのでしょうか。つぎにカメラは西の京へ飛びます。大池の水面に映る“凍れる音楽”西塔と東塔。金堂と大講堂はさらりと3カットで収めて奈良公園に戻ります。春日大社参道では祭の準備でしょうか子供たちが奴行列の練習をしていました。立ち並ぶ石灯籠。昼なお暗いこの辺りは荘厳な佇まいです。朱色の柱が無数に並ぶ彼方で朱の袴姿の巫女が箒を使っている構図はたいへん印象的でした。なぜか再び奴行列の練習風景があり、若草山を経て二月堂へ。二月堂では時間をかけて詳細に描写されていました。土塀のある坂道を通り大仏殿中門と南大門。鹿と戯れる観光客の姿を撮ることも忘れていません。そして暮れ泥む奈良公園の俯瞰で終わります。飛火野、薬師寺、春日大社、若草山、二月堂、大仏殿、と。ざっと見ただけでも広大な範囲です。それほどの箇所でも確かな構図で丁寧に撮られていました。これを一日でまわって撮影されたとはとても思えません。脱帽です。

5. 台湾京劇の舞台裏を覗いて（HD）

蟹江利一さん 8分20秒

Taipei EYS（台北戲棚）と呼ぶ京劇をは

じめ民族舞踏や雑技などが演じられる観光客専門の総合劇場です。舞台の合間には役者たちがロビーに出て舞台化粧をする様子や立ち稽古なども観光客に披露しています。普通では見ることのできない舞台裏の光景を見せることで外国人観光客も含めたより多くの人々に台湾芸能を理解してもらいたいとの考えから始められたそうです。もちろん撮影は自由。京劇の役者も気軽に写真に収まってくれます。題名の“舞台裏を覗いて”は、常識では不可能な場面も撮れた、という意味に解釈しました。しかし本番舞台は撮影禁止だったそうです。

6. 開門神事を支える裏方さん (HD)

吉岡貞夫さん 13分50秒

えべっさん恒例の西宮神社の開門神事に参加する人が年を追うごとに増え、危険を避けるために昨年より前から門前に並ぶ順番を抽選で決めているそうです。2回目の今年は、作者にその模様を記録してほしいと神社からの依頼で、たいへん忙しい裏方さんの仕事ぶりや、押し掛けてくる参加者の表情などを詳しく撮っておられます。1月2日午前0時に門が閉じられ1時から抽選が始まりました。籤は赤、青、無印の三種類。赤と青には番号が書かれてあり、籤に当たった人はその番号順に場所を確保して開門を待ちます。参加者は当然としても裏方さん、とくに前日の宵のうちから深夜の寒空の下でカメラを抱えながら立ちづめの作者は大変だったでしょう。ご苦労さまでした。

7. 秋を彩る (AVCHD)

有村 博さん 3分21秒

OMC初のお目見えです。カード式カメラで撮ったAVCHD方式映像をEDIUS6のタイムラインにそのまま張り付けて編集。それをカードに戻し、作者が持参したDVDプレーヤーのカード再生機能とプロジェクターをHDMIケーブルで接続して映写しました。1920X1080/60pという最新仕様のカメラで撮られたのだそうです。たいへん美しい映像でやっぱり違うな！と感じましたが、DVからHDVに変わったときのようなインパクトはありません。気付いてない人もいたかも知れませんが1秒ほどの周期で弱く点滅していることも気掛かりです。60pカメラやその特徴についてはビデオサロン4月号に特集

されていますので参考にしてください。(前田さんの著作権問題もでています)

8. 平城京への道 (HD)

進藤信男さん 13分52秒

難波宮跡を起点に暗峠を経て奈良平城京に至る旧街道をそれぞれの時代の歴史を探りながら辿るという壮大な計画。まず難波津は何処だったか、から始まりますが三津寺界隈の三津という説や高麗橋あたりなどと言ったり、今も定かではないそうです。谷町7丁目で道の真ん中に鎮座する榎大明神。その熊野街道から玉造神社という具合に、かなり南北にぶれながら東に向かうあたり、つまり生駒山麓までは幾つものルートがあったことがこの作品から伺えます。枚岡神社ではちょうど秋祭りの最中。何基ものふとん太鼓が町中を練り歩きます。この祭風景だけでひとつの作品になるのでは、と思うほど詳細に撮られていました。枚岡からはいよいよ急な上り坂そして暗峠。作品はここで前編として終り。後編も期待します。

9. スリランカを訪ねて (HD)

山本正夢さん 7分10秒

のんびり沖をゆく帆かけ舟。船体に似合わず大きな帆と思ったらカタマランというアウトリガー付きでした。首都コロンボの海岸はほとんど砂浜。地震が多い日本の大都市とは大違いです。日曜露天市は活気に満ちて物も種類も豊富。ナンを薄く伸ばしたような物の上に具をのせ四角にたたんだロティーとはどんな味がするのでしょうか。満員の路線バスの中でも物売り歩いている光景には驚きました。スリランカの産物と言えはまず宝石を思い浮かべますがセイロン紅茶も主な産業だったんですね。作者の映像の素晴らしさは前後のつながりにはあまりこだわらず断片的ながらも最後まで飽きさせないところでしょうか。ラスト近く、陽が沈みかけるおだやかな海岸。子供を抱き、素足を海に浸けながら沖を眺める若い母親の後ろ姿はたいへん印象的でした。

10. シャンパーニュ地方の醸造所見学 (HD)

江藤洋司さん 4分12秒

発泡ワインのシャンパン発祥地で、フランス北部、パリの西約200キロに位置します。インターネットの検索をつかってオンラインでつながった。と、最初のナレー

ションですが、車が着いたところは大きなワイン貯蔵所のようなところでした。うず高く積み上げられたボトルの山。その中から一本を抜き取って光にかざすと薄く赤味を帯びていました。ロゼです。この主人がいろいろ説明してくれているのですが作者は理解できていないようでした。箱詰めにする作業も実演して見せ、最後はシャンパンをご馳走になってお別れ。ここで作品は終わります。見知らぬところへ、たとえ言葉が通じなくてもチャレンジする作者の行動力に脱帽です。

11. 早春の寺 (HD)

宮崎紀代子さん 7分33秒

庭の水仙が咲き揃う頃、もうお馴染みになった龍雲寺の「はんにゃはん」は、三蔵法師が天竺から持ち帰った600巻の経典を転読する恒例行事です。今年は4人の和尚さんが30巻づつ読みました。もう町内に根付いていて、とても和やかな雰囲気でした。しかしその一週間後は寒波襲来で一面の銀世界に。龍雲寺の庭の木も仏像も綿帽子を被ったような光景です。それを見ながらあっちこちに散りばめた作者の名句。なかでも「道行きの玄奘像に雪明かり」は私をもっとも気に入りました。画面はがらっと変わって龍雲寺の梅が満開。この梅は実が成る種類で味もよく、採取後は町内の各家庭に配られるそうです。どうか今年も平穏な年でありますように。

12. 新薬師寺のおたいまつ (HD)

黒田敏彦さん 19分30秒

奈良公園の南、高畑町は築地塀や古びた土塀に囲まれた屋敷が点在し、奈良らしい面影を留める閑静な住宅街。その一角に新薬師寺があります。新薬師寺の「新」はあたらしいではなく、霊験あらたかなの「あらたか」を意味します。天平の創建時代は七堂伽藍を備えた壮大なお寺だったそうですが、落雷や台風などの被害で衰退し今は静寂感さえ漂うこじんまりとしたお寺です。しかし本堂は創建当時のもので、本尊の薬師如来座像、それを守護するように取り囲む十二神将像とともに国宝になっています。櫃(かや)の一木造りのご本尊は切れ長で大きな眼、分厚い唇、堂々たる体躯に、光背の六薬師を含めた七薬師の天平彫刻です。その周囲に立つ十二神将は何者も

寄せ付けぬ迫力があり、なかでも伐折羅像は天を突く怒髪と激しい威嚇の表情に圧倒されます。作者のカメラはそれらに肉迫し、その映像は力量感に溢れていました。お釈迦さまの誕生日の4月8日、新薬師寺では「おたいまつ」と呼ぶ修二会の行事が行なわれます。朝からその準備が始まり、東大寺から出仕した童子たちが大松明10本と、ひとまわり大きな籠松明、合わせて11本を造ります。午後5時、東大寺から出仕した僧侶10人が田中定観師の先導で本堂に入り法要が始まりました。特別に許可された作者のカメラが、初めて見る法要をつぶさにとらえています。

昼間の法要が終り夕暮どきになると、どこからともなく人々が集まり本堂のまわりを大きな人垣が取り巻きます。日没とともに大松明に火がつき、明々と照らす炎に導かれて僧侶が進みます。10本の大松明で僧侶10人が堂内に入ったあと、いよいよ最後の籠松明に点火されこの修二会のクライマックスを迎えます。ひととき大きな炎があたり一面を照らしだす中を緊張した面持ちの田中定観導師があとに続き、満開の桜とともに、まさに幽玄の世界を演出します。夜の法要が始まり作者のカメラも再び本堂内へ。散華がおこなわれ、次いで全国の神々の名を記した神名帳を読み上げます。これは神仏融合の精神が今も脈々と受け継がれている証なのでしょう。普段見ることのできない貴重な映像を拝見しました。

13. サントリー山崎と伏見 (HD)

宮井 健さん 7分00秒

初のパソコン編集との前置きがありました。と言うことはパソコンでいきなりHDを…。すごいですね。作品はサントリーの工場見学から始まります。貯蔵所や蒸留工場を見学後はバーカウンターへ。美人の案内と自由試飲でみなさん満面の笑み。創業者鳥井信治郎像の前で記念撮影。そして京都へ。がんこ二条店で昼食とは豪華ですね。食後は伏見の十石舟に乗船。そして月桂冠の酒蔵見学。寺田屋。聞きそびれましたが、旅行社のツアーではなさそうで、おなじみのお顔がいっぱい。たぶん貸切バスを利用した家族連れの写真会だとも思います。だけど楽しいですね、こんな撮影会は。